

Lesson 6

お金を借りる

◆お金を借りるとは？	60
◆なぜ、お金を借りることができる？	61
◆利息について	63
◆返済方法の違いを知ろう！	64

学習のポイント

- お金を借りることの意味を理解する
- お金を借りるには信用が大切であることを理解する
- 利息の付き方について理解する
- 返済方法の違いを知る

Lesson 6

お金を借りる

学習のポイント

- お金を借りることの意味を理解する
- お金を借りるには信用が大切であることを理解する
- 利息の付き方について理解する
- 返済方法の違いを知る

①奨学金

進学するための学費をまかなう方法の一つ。日本学生支援機構（JASSO）のほか地方公共団体や民間企業によるもの、学校独自の制度などがある。JASSOには、貸与奨学金と給付奨学金がある。貸与奨学金は、学生が自立して学ぶことを支援するために学生本人に貸与され、卒業後には返還する義務がある。返還したお金は、次の世代の奨学金として使われる。給付奨学金は、経済的に困難な状況にある低所得の生徒に対して、大学等への進学を後押しすることを目的としている。返還する必要はない。

※もしも延滞するとどうなる？（JASSOの貸与奨学金の場合）約束の期日までに返還しない場合、延滞金が課されたり、3カ月以上延滞が続くと個人情報情報機関に個人情報が登録される。それにより、住宅ローンが借りられない、クレジットカードが作れないようになるため注意が必要だ。返済が難しくなった場合の救済制度もある。困ったら、まずは「奨学金返還相談センター」に連絡して、今後の返済について相談しよう。

②教育ローン

教育ローンには、日本政策金融公庫が融資する「国の教育ローン」と、銀行などが扱う「民間教育ローン」がある。国の教育ローンでは、大学、短期大学、高等学校、専修学校、各種学校、予備校などの入学料、授業料、受験料、アパートにかかる費用、教科書代、通学費用、学生の国民年金保険料などが融資の対象となる。

1. お金を借りるとは？

返せるかどうかが問題

Lesson 5では、何か欲しいものがあるとお金が足りないときの一つの対処の仕方として「貯蓄」の話をしたが、ここでは「お金を借りる」方法について考えてみたい。例えば、大学の入学料や授業料が結構高いことは知っていると思う。もし、進学希望で大きなお金が必要になることが分かっているのに、家にお金があまりない、「貯蓄」で十分なお金が貯まるのを待っていると進学の時期に間に合わない、というような場合にはどうすればいいのだろう。

こんなとき、「お金を借りる必要」が出てくる。お金を借りるという行動を起こさなければ進学そのものをあきらめるしかない。こういったケースでは、「奨学金^①」や銀行などの金融機関が取り扱う「教育ローン^②」とか「進学ローン」を利用することになる。将来、マイホームが欲しいという場合にも同じようなことがいえるだろう。だから、多くの人が「住宅ローン」を利用してマイホームを手に入れようとする。ほかにも、車や家電製品の購入、旅行費用など、長い人生の間には、お金を借りることを真剣に考えなければいけない場合もある。

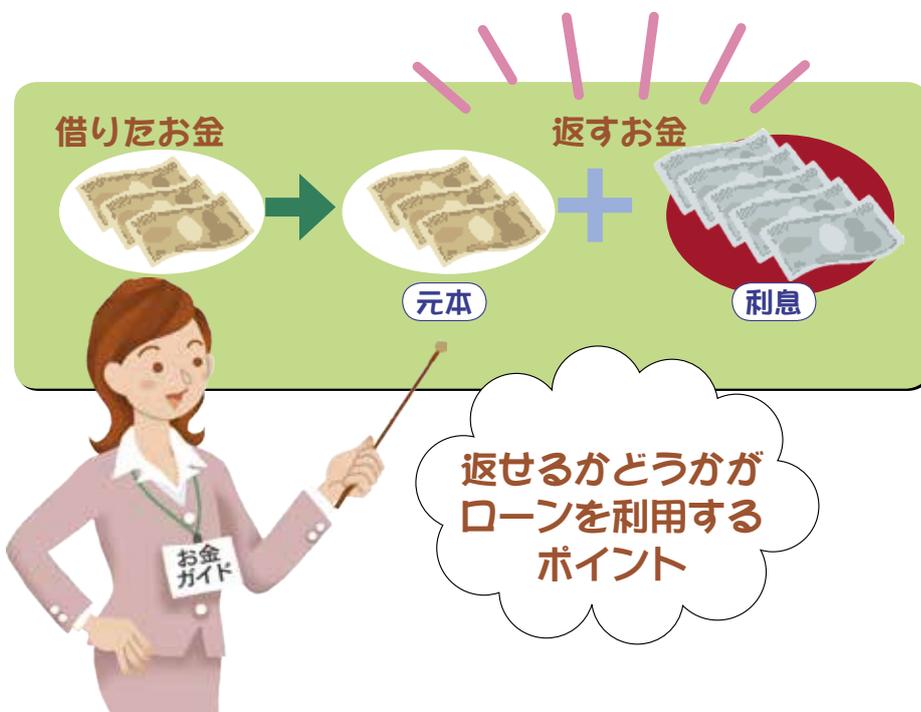
「ローン (loan)」を英和辞典で引くと「貸す」「貸付」と訳されているが、要するに「お金を借りて返済すること」と考えればいい。お金を持っていなくても今すぐに目的を実現できる「ローン」商品は、とても便利なものだといえる。

でも、これは必ず覚えておいてもらいたいのだが、「便利」さは「危険」ととても仲がいい。借りたお金は返さなくてはいけない。社会人であれば、お金を「借りる」ことはそんなに難しくないのだけれど、「返す」のがとても困難になることがよくあるし、実際に返せなくなる人も出てくる。

銀行などは利益を得るための業務の一つとして「ローン」商品を提供しており、その利益は「金利」によってもたらされる。ローンには利息が付くということだ。「貯蓄」のために利用する預金や貯金では銀行やゆうちょ銀行から利息をもらえるが、ローンを利用すると逆に利息を払わなければいけなくなる。そして、これは容易に想像がつくだろうが、一般に預金や貯金の金利よりもローン金利のほうが高い。そうでなければ、銀行などの金融機関は利益を上げら

れないからだ。

- つまり、ローンを利用したら、借りた元の金額以上のお金を返す必要があるわけで、金利が高ければ利息も多くなるから、返済金額がとて大きくって
5 しまうことだってある。返すのが難しくなる原因の一つだ。そこで、ローンの
利用は「借りられるかどうか」よりも、「返せるかどうか」を見極めることの
ほうが大切だ。では、「お金を借りる」ことについて、もう少し深く考えてみ
よう。



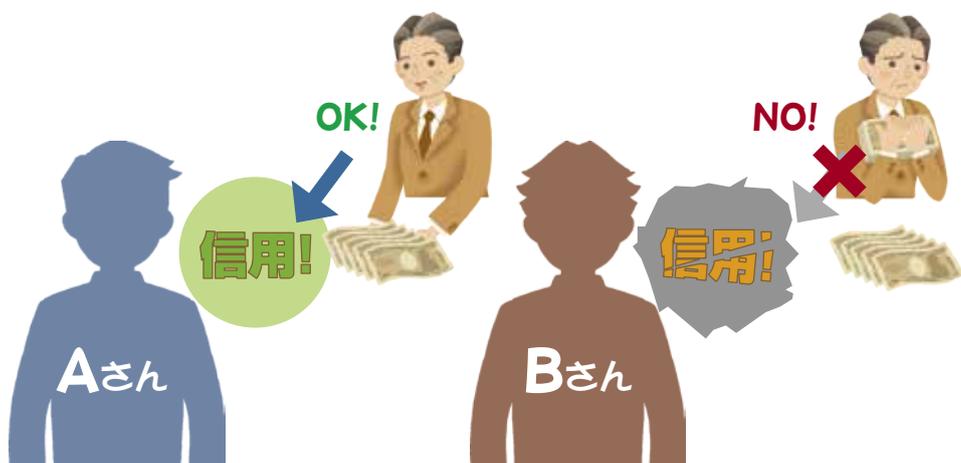
2. なぜ、お金を借りることができる？

「信用」ということ

- 10 CDやDVDのレンタルサービスを利用して、映画やアニメを借りたことがあ
るだろう。店によってルールは少しずつ違っているけれど、レンタル期間の長
さや借りる本数で料金が異なり、ルール通りにCDやDVDを返さないと延滞料
が加算される仕組みだ。このルールは利用者とレンタルショップとの間に交わ
された取り決め（契約）で、当然守らなければいけない「約束」ごとである。
15 レンタルショップ側は、利用者がこのような約束を守る人だと信用してDVD
などを貸しているわけだ。つまり、他人同士とかお店と利用者などの間で、こ
のような約束ごとが成り立つときには、すべてこの「信用（できる）」という
前提がある。

「ローン」を利用するという場合も、お金を借りて後で返す「約束」をすることだから、借りる（返す）人に「信用」があるかどうか大きなポイントとなる。さっき、「お金を借りることはそんなに難しくない」と言ったけれど、実は、誰でもそうだというわけではない。銀行などからお金を借りたいと思って申し込んでも、借りられない人もいる。その違いは、お金を貸す側から見て、その人が「信用」できそうな人かどうかから生まれる。

性格的に約束を守れそうになく、財産もあまり持っておらず、返済に充てる収入もなく、計画性がなさそうな人は、銀行などからお金を借りることは難しい。



約束を裏付ける「契約（書）」

ところで、お金を貸す側が相手をいくら「信用」したとしても、口約束だったり当事者間だけの話だったりすると、その約束が絶対に守られるという保証はない。そこで、もしものときにその約束を、誰が見ても効力があると認められて、強制的に守らせることのできる法律上の裏付けが必要になってくる。ここから生まれたのが「契約^③」で、約束の内容を文字の上で明確に示した「契約書」が作られ、その契約の内容をお互いが了解したことを証明するために、お互いに署名して印鑑（ハンコ）を押すことになる。

「お金を貸してください」と銀行などに申し出て、相手が「貸しましょう」と承諾すれば契約が成立するが、この契約に違反すれば裁判所に訴えられたりして契約を守るよう強制される。具体的には、めぼしい財産を「差押え」と言って持っていかれてしまったり、賠償金を支払わされたりすることになる。「お金を借りる」ということには、便利さの半面、このような厳しさがある点を忘れてはいけない。

③ 契約

契約は、「申込」と「承諾」によって成立する。この申込や承諾は、書面でも口頭でも構わない。つまり、契約自体は口頭でも成立するわけだが、いったん契約が成立すると、簡単にやめることはできない。そのため、言った言わないのトラブルを避けるとともに、契約の内容を確認するために契約書が作成される。ハンコを押すのは商習慣で、押していないから契約していない、とは言えない。

3. 利息について

さて、ローンを利用すると、その対価として利息を支払う必要がある。この利息の付き方に関する取り決めは、お金を借りるときの「契約」の中でも、最も重要な事柄だ。

- 5 一定の期間において支払う利息の割合を「金利」といい、借りた金額（元金）に対して利息の計算をする場合に使用する。

計算式は次のとおり。

$$\text{借りた金額（元金）} \times \text{金利} \times \text{借入期間} = \text{利息}$$

- 10 それでは、「金利」はどのようにして決まるのかというと、いくつかの要因が考えられる。

①お金を貸すためのコスト

お金を貸すためには貸すためのお金が必要となる。そのお金を調達するためによそから借りたりすれば、コストがかかってくる。また、貸すための事務経費などもかかる。

- 15 これらを負担した上で利益を出すためには、それ以上の金利を設定する必要があるのだ。

②お金を借りる人の信用

ローンの設定は契約によって成り立っている。信用をベースに金利が決められるが、借りる方の信用度によって異なってくる。

- 20
- 高い信用があれば、返済が行われない可能性が低くなるので、金利も低めに設定される。
 - 反対に、信用が低ければ、万一返済が行われない場合を想定して金利は高めに設定される。

③担保の有無

- 25 貸す人にとって、万一返済が行われない場合でも損することがないように、担保^{*}が必要な場合がある。担保とは、借金の返済ができなかった場合に備えて、自分の財産などで保証することをいい、担保がある方が金利は低めに設定される。

^{*}担保には、土地や車などの「物」による担保と保証人などの「人」による担保がある。

④設備投資

企業が、より良い製品やサービスを提供するために建物や機械などの生産設備にお金を投じること。

④需要と供給のバランス

需要と供給の関係によっても金利は異なってくる。

- 借りたい人が多くなり、貸したい人が少なくなれば、金利は上がる。
- 反対に、借りたい人が少なくて、貸したい人が多くなると金利は下がる。

5

経済状況の変化に照らし合わせると、好景気時には、企業が設備投資^④のためにお金を借りる機会が多くなるので金利は上がり、不景気時には設備投資も減り、お金を借りるところが少なくなるので金利は下がる傾向にある。

このように「金利」はさまざまな要因と複雑に絡み合い、決められるものなのだ。お金を借りるときに契約する「金利」には、大きく分けて「固定金利」と「変動金利」がある。

10

「固定金利」は、お金を借りる契約をしたときに決められた金利が、世の中の金利水準に大きな変化があっても、返済が終了するまで変わらない。返済期間中に金利の変動がないので返済計画が立てやすいし、世の中の金利水準が低いときには、設定された金利が返済終了まで続くので、低金利時代にはメリットがある。

15

これに対して「変動金利」は、世の中の金利水準の変化に合わせて、金利を一定の期間ごとに見直していくものである。世の中の金利水準に連動するため、金利の低いときに利用するより、金利が高いときに利用するほうが望ましいといわれる。

お金を借りる時期によって選択の仕方が異なるので、注意が必要だ。

20

⑤利息と法律

利息は、法律によってその上限が決められており、現在の法律では、貸付金利の上限は年15～20%となっている。

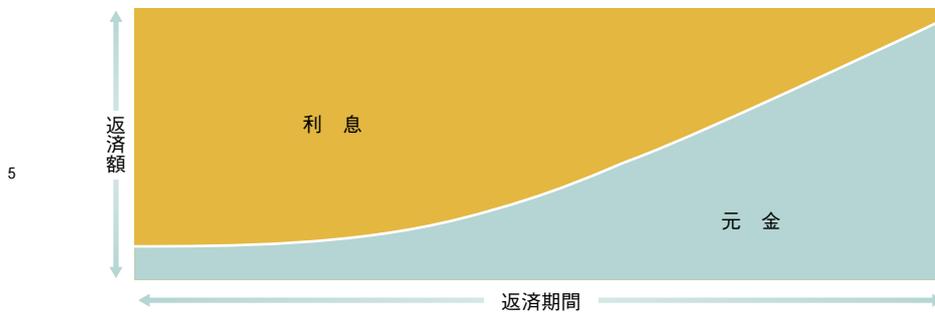
4. 返済方法の違いを知ろう！

返済方法にはさまざまな方法があるけれど、その違いを理解した上で、自分に合った返済方法を選択しなくてはならない。主なものを紹介しよう。

①元利均等返済

毎月の返済額（元金＋利息）が均等になるように計算される。当初は利息が多いけれど、反対に元金が少なく、返済の回数が進むに連れてそれが逆転する。返済計画が立てやすいメリットがある（図1）。

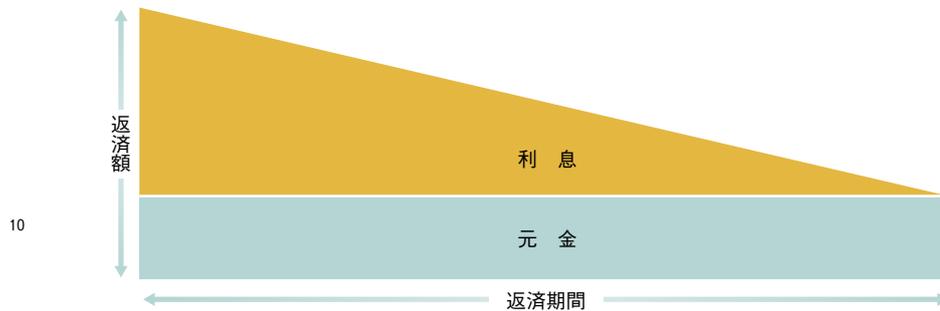
●図1 元利均等返済



②元金均等返済

元金を毎月均等に返済する。返済額（元金+利息）は当初が多く、回数が進むに連れて少なくなる。同じ条件で借りた場合、利息の総額は元利均等返済より少ない（図2）。

●図2 元金均等返済



③一括返済

返済の回数を当初から1回に決めて返済を行う。ただし、少ない回数でお金を返すので1回当たりの返済額が大きくなる。

④リボルビング返済

一定の利用限度額を設定し、その範囲内においてあらかじめ設定した金額を分割して支払う方法である（リボルビングとは「回転・反復」という意味）。返済方法には、利用残高に対して一定率で支払う方法と一定額ずつ支払う方法があり、返済回数が限定されず、残高がある限り返済し続けるという点に特徴がある。

リボルビング返済 (リボ払い)の 仕組みと注意点

COLUMN

COLUMN リボルビング返済（リボ払い）の仕組みと注意点

クレジットカードで買い物をした際の支払いは、毎月決まった日に銀行口座から自動的に引き落とされる仕組みになっている。支払い方法には、一括（1回）払い、分割払い、リボルビング払い（リボ払い）がある。

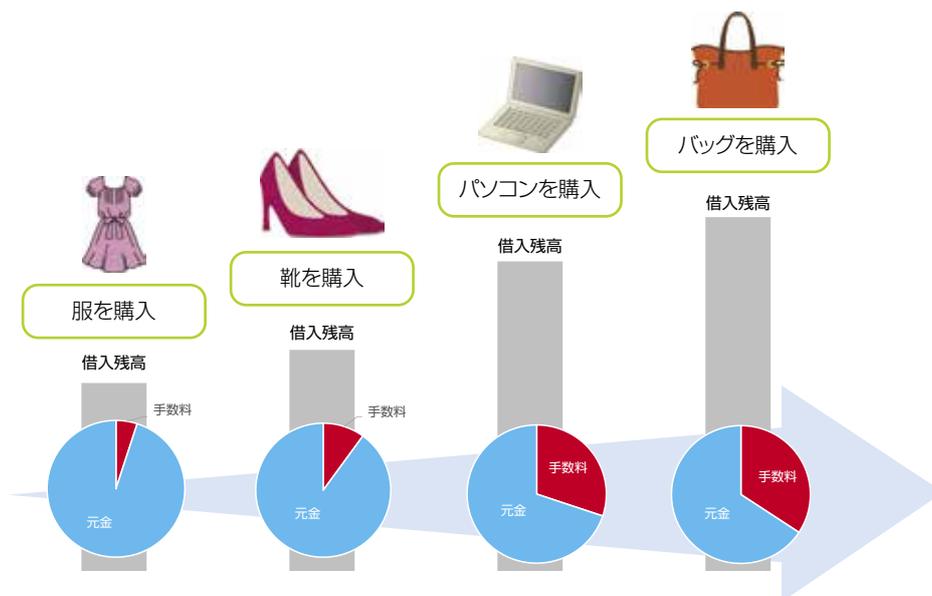
リボ払いの申し込み方法はいくつかある。①クレジットカードの契約の段階で、すべての買い物の支払いをリボ払いにする方法、②買い物をした都度、リボ払いにする方法、③買い物をした後、預金残高の不足に気づき、事後的にリボ払いを申し込む方法、などである。

リボ払いとは、高額な買い物をしても月々の返済額（口座引き落とし額）を5千円（商品返済額＋手数料）など、あらかじめ自分で決めた一定額を支払えばよい仕組みである。自分で決めた返済額のため、毎月の負担感が少なく感じる傾向があるがクレジットカードでの買い物が増えやすくなることには注意しなければならない。クレジットカードを使うとい

うことは、お金を借りることと同じ意味である。また、支払いの状況が分かりづらいため、途中で新たに買い物をして借入残高がさらに増える。さらに、毎月返済額に占める手数料も増えるため、返済する元金が減ることで返済期間が長くなりやすい面もある。その結果、高い手数料を長期に渡って支払うこととなり、返済総額が思ったよりも多くなってしまふことを知っておこう。

クレジットカードを使うなら、手数料のかからない一括払いを原則とし、もしリボ払いを利用するのであれば、その仕組みと注意点をよく考えてからにした方がよいだろう。

● 図 頻繁にリボ払いを利用した場合



毎月の返済額に占める**手数料**は増え、返済期間が長引くことになる